

今月の経済動向 (平成30年4月)

● 月例経済報告 (4/16)

<p><b>基調判断</b></p>	<p>(4月) 景気は、緩やかに回復している。 先行きについては、雇用・所得環境の改善が続かなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p> <p>(3月) 景気は、緩やかに回復している。 先行きについては、雇用・所得環境の改善が続かなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p>
<p><b>個人消費</b></p>	<p>(4月) 持ち直している。</p> <p>(3月) 持ち直している。</p> <div data-bbox="686 409 1402 817"> <p style="text-align: center;"><b>消費総合指数と実質総雇用者所得</b></p> </div>
<p><b>設備投資</b></p>	<p>(4月) 緩やかに増加している。</p> <p>(3月) 緩やかに増加している。</p> <div data-bbox="686 817 1402 1225"> <p style="text-align: center;"><b>製造業・非製造業の設備投資 (実質)</b></p> </div>
<p><b>住宅建設</b></p>	<p>(4月) 弱含んでいる。</p> <p>(3月) 弱含んでいる。</p> <div data-bbox="686 1225 1402 1632"> <p style="text-align: center;"><b>住宅着工戸数 (季節調整値)</b></p> </div>
<p><b>雇用情勢</b></p>	<p>(4月) 着実に改善している。</p> <p>(3月) 着実に改善している。</p> <div data-bbox="686 1632 1402 2040"> <p style="text-align: center;"><b>雇用者数、就業者数の推移</b></p> </div>

月例経済報告：内閣府

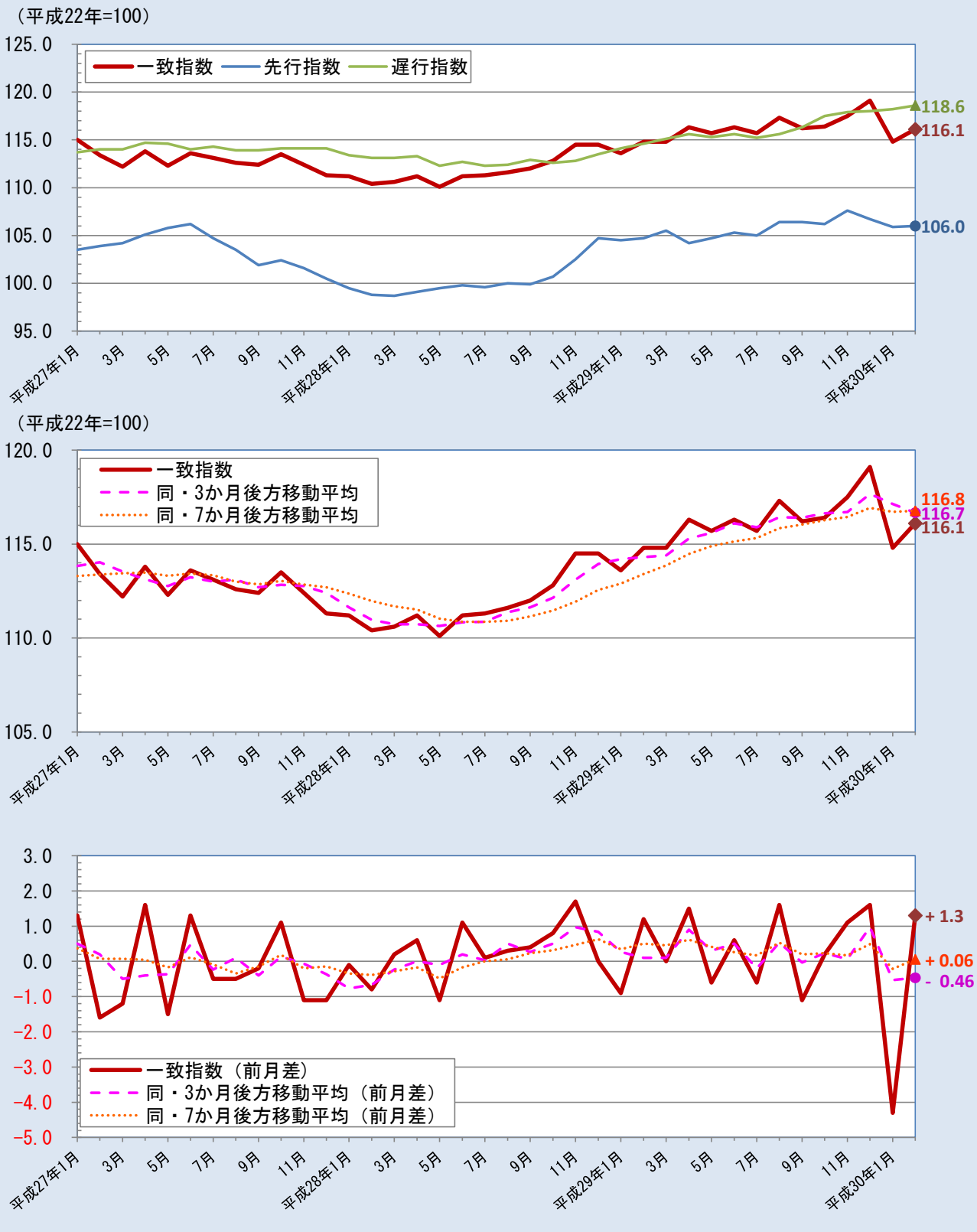
<p>生産</p>	<p>(4月) 緩やかに増加している。</p>	<p>鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移 (2010年=100)</p>																		
	<p>(3月) 緩やかに増加している。</p>																			
<p>輸出</p>	<p>(4月) 持ち直している。</p>	<p>地域別輸出入数量指数 (2010年=100) ①輸出</p> <table border="1" data-bbox="1236 672 1348 873"> <tr><td>アメリカ</td><td>2月</td><td>+4.1%</td></tr> <tr><td></td><td>3MA</td><td>+0.5%</td></tr> <tr><td>アジア</td><td>2月</td><td>▲3.0%</td></tr> <tr><td></td><td>3MA</td><td>▲0.5%</td></tr> <tr><td>EU</td><td>2月</td><td>▲1.7%</td></tr> <tr><td></td><td>3MA</td><td>+0.7%</td></tr> </table>	アメリカ	2月	+4.1%		3MA	+0.5%	アジア	2月	▲3.0%		3MA	▲0.5%	EU	2月	▲1.7%		3MA	+0.7%
アメリカ	2月	+4.1%																		
	3MA	+0.5%																		
アジア	2月	▲3.0%																		
	3MA	▲0.5%																		
EU	2月	▲1.7%																		
	3MA	+0.7%																		
	<p>(3月) 持ち直している。</p>																			
<p>国内企業物価</p>	<p>(4月) 緩やかに上昇している。</p>	<p>企業物価の推移 (2015年=100)</p>																		
	<p>(3月) 緩やかに上昇している。</p>																			
<p>消費者物価</p>	<p>(4月) このところ緩やかに増加している。</p>	<p>消費者物価の推移 (2015年=100)</p>																		
	<p>(3月) このところ緩やかに増加している。</p>																			
<p>海外経済</p>	<p>(4月) 世界の景気は、緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響、金融資本市場の変動の影響等について留意する必要がある。</p> <p>(3月) 世界の景気は、緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、中国をはじめアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響、金融資本市場の変動の影響等について留意する必要がある。</p>																			

[月例経済報告：内閣府](#)

● 景気動向指数（平成30年2月・改訂値）

平成30年1月のCI一致指数（改訂値）は前月より1.3ポイント高い116.1ポイントとなり、2か月ぶりの上昇となった。3か月後方移動平均は前月より0.46ポイント低い116.7ポイントとなり、2か月連続の下降となった。7か月後方移動平均は前月より0.06ポイント高い116.8ポイントとなり、2か月ぶりの上昇となった。  
 CI先行指数は前月より0.1ポイント高い106.0ポイント、遅行指数は前月より0.4ポイント高い118.6ポイントとなった。  
 景気の基調判断（CI一致指数）は、「改善を示している」を据え置いた。

※算出に用いるデータの一部分が季節調整替えに伴う遡及改訂が行われたため、CI一致・遅行指数は全期間の値が遡及改訂された。  
 また、データの一部分が年間補正に伴う遡及改訂が行われたため、CI先行指数は平成29年1月以降の値が遡及改訂された。  
 このため、前月との比較は遡及改訂後の数値で比較しており、前月発表された数値との比較ではないことに注意。



景気動向指数：内閣府